



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<https://sanchurch.jp/wp/>

三軒茶屋教会通り

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

「それは誰かがやればいい」それが正直な思いになってはいまいか。教会内での様々な役割、福音伝道、行事の開催、法人組織としての運営、どの奉仕も誰かが担うからこそ支障なく実現する。

教会がその使命を果たすために、また活気ある教会になるために考えつくアイデアは多くある。バザー、コンサート、困窮者への支援、子ども食堂、講演会や公開セミナーの開催、その他にもまだある。

多くはそうしたアイデアに賛同できるだろう。しかし、それらを実行するための労を担う奉仕者を募れば、多くが「賛成しますが、私は担えません」となる。誰もが楽をしたくない。労苦を負いたくはない。面倒なことに巻き込まれたくない。大きな責任を引き受けたくない。

それが今の時代の現実だ。皆、それぞれ都合や事情があり、教会中心の生活を心掛けようとする思いは、かつての時代と同じではない。

しかし、主日礼拝を守りながらの教会の営みは、多くの奉仕で成り立っている。司式、奏楽、受付、献金奉仕、会計、清掃、施設維持、役員会、各種の集会など、そうした奉仕

に生き生きと取り組んでいる教会は、雰囲気が良い。新来会者を迎える姿勢もおのずと整っていく。

教会を初めて訪れる人は、誰もが最初はゲストだ。そのゲストを快く迎え入れるのがホストである。ホストのよき配慮や気遣いによって、ゲストが受ける教会の印象は決まる。「また来てみよう」という気持ちになる。その教会への信頼も高まる。

そうした体験もあつて教会の礼拝に通い始めた人は少なくない。そして、洗礼を受けて教会員となつても

主イエスの僕として —ゲストからホストへ—

牧師 伊藤英志

当初はゲストに近い。しかし、ゲストからホストへ変わり始める時が訪れる。新来会者が自分の席の近くに座つたなどが契機となり、ゲストである新来会者を迎える側を立てる自分に気付く。

教会とは、そうしたゲストからホストへと移っていく人々による、さまざまな奉仕の積み重ねによって、より生き生きとしてくる人々の群れなのだ。

ホストになる、それは労苦や面倒

を負う立場になることを意味する。その立場を、主イエスの僕として喜んで引き受けられる。時に自分に与えられた使命と受け止める。そうした主の僕たちがその教会の歴史を形づくっていく。

もし、その教会がゲストのままではないようとする人々の群れだとしたら、その教会が進み行く未来は閉ざされてしまう。

ゲストのままにいるのは、確かに気楽で快適だ。しかし、皆がそろつて「それは誰かがやればいい」となるのか。それも、皆が



「それは私ができる」「私が引き受けます」と一歩前に出るのか。主の僕たちはそのどちらに促されているのか。答えは明白だ。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(マルコによる福音書8章34節)

ゲストの立場を捨てて、ホストという十字架を背負おう。どんなにか些細な働きであつてもそのホストたちは、喜びと笑顔が満ちた主の僕たちの群れとなる。そして、その教会の歩みには、新しい次の未来に向かつての扉が開かれてゆくだろう。